

科目名	在宅看護概論	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	1年 1学期	
区分	統合分野						
担当者	瀧本広美	資格	保健師 看護師	実務 経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>日本の人口は減少していく傾向にあり、超高齢化の到来が社会的課題となっている。この現状をふまえ高齢者を含めたすべての人々が地域の中で暮らしていく在宅看護が求められる。そこで在宅看護の特徴や基盤を学び、対象者を多角的・総合的にとらえて学ぶ。さらに在宅療養の場における家族を理解し、家族への看護について幅広く学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>日本の在宅看護の変遷とその社会背景及び基本理念について説明できる。</li> <li>在宅看護の特徴と在宅看護の基盤について説明できる。</li> <li>在宅療養者について、ライフサイクル・健康レベル・疾患・生活の場からとらえ、理解することができる。</li> <li>在宅療養の場における家族について、介護力のアセスメント、家族関係の調整等の看護が理解できる。</li> </ol>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>在宅看護の背景と特徴</li> <li>在宅看護の基盤</li> <li>地域療養を支える在宅看護の役割・機能</li> <li>在宅看護を展開するための基本理念と倫理</li> <li>在宅看護の対象者</li> <li>在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件</li> <li>在宅療養の場における家族のとらえ方と家族への看護</li> <li>筆記試験、まとめ</li> </ol>							
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 2021</p>							
<p>参考書</p> <p>適時、プリント配布</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	在宅看護方法論 I	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期	
			講義			1	1年 2学期	
区分	統合分野							
担当者	瀧本広美	資格	保健師 看護師	実務 経験	有・無	時間	15 / 30時間	
担当者	加藤朋子	資格	保健師	実務 経験	有・無	時間	15 / 30時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>看護や介護を要する在宅療養者は近年増加をたどり、訪問看護等保健医療福祉が果たす役割は大きい。そのため在宅における看護の実践について、訪問看護ステーションを中心に学ぶ。また、在宅療養の場では、起こり得る事故を予防する視点が必要となる。そこで日常生活と災害時における危機管理と安全管理について学ぶ。</p> <p>高齢者や障害を持つすべての人々が、地域で生活を継続していくことができるための体制や制度について学習する。特に今治市における地域への特性をふまえ、制度と社会資源について学びを深め、在宅看護の対象とその家族を理解する。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問看護の目的・制度・実施期間・法的責任を理解し、訪問看護師の役割を説明できる。</li> <li>2. 訪問看護ステーションとサービス利用迄の流れや展開について理解できる。</li> <li>3. 在宅看護における日常時と災害時の危機管理、リスクの特徴を理解し予防策について説明できる。</li> <li>4. 地域包括ケアシステムの概要と看護職の役割が説明できる。</li> <li>5. 地域包括システムにおける多職種・多機関連携の意味が理解できる。</li> <li>6. 在宅看護におけるケースマネジメント・ケアマネジメントについて理解できる。</li> <li>7. 地域療養を支える制度の概要について理解できる。</li> </ol>								
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>&lt;瀧本広美&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問看護の特徴</li> <li>2. 在宅ケアを支える訪問看護ステーション</li> <li>3. 訪問看護サービスの展開</li> <li>4. 訪問看護の記録</li> <li>5. 在宅看護における危機管理</li> <li>6. 日常生活における安全管理</li> <li>7. 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理</li> <li>8. 筆記試験、まとめ</li> </ol> <p>&lt;加藤朋子&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域包括ケアシステム</li> <li>2. 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機能連携</li> <li>3. 在宅看護におけるケースマネジメント・ケアマネジメント</li> <li>4. } 社会資源の活用</li> <li>5. } 医療保険制度、後期高齢者医療制度、介護保険制度、生活保護制度 障害者に関連する法律</li> <li>6. } 難病法</li> <li>7. } 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源 高齢者施策</li> <li>8. 筆記試験、まとめ</li> </ol>								
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 2021</p>								
<p>参考書</p>								
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>								

科目名	在宅看護方法論Ⅱ	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義・演習		1	1年 2・3学期	
区分	統合分野						
担当者	西野憲子	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>在宅療養支援においては、生活ケアの他に医療的ケアも必要となることが多い。そのため在宅における医療管理と生活支援の方法と看護について学ぶ。</p> <p>また事例では『脳卒中の後遺症』を通して医療依存度の高い在宅療養者と家族への援助を学ぶ。さらに訪問看護を実際実践するための技術について学び、演者を通して訪問看護師の訪問看護導入のプロセス行動を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護における生活ケアと医療的ケアの技術について説明できる。</li> <li>2. 訪問看護師の訪問看護単入のプロセス行動を理解できる。初回訪問の演習を通して、適切に訪問看護師の行動がとれる。</li> <li>3. 事例の対象者と家族への援助について考えをまとめることができる。</li> </ol>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活ケアと医療的ケア</li> <li>2. } 在宅経管栄養法、胃瘻、在宅中心静脈栄養法</li> <li>3. }</li> <li>4. 在宅自己導入・膀胱留置カテーテル管理</li> <li>5. ストーマ管理</li> <li>6. 褥瘡予防</li> <li>7. 在宅酸素療法</li> <li>8. ケアプラン作成と関連職種間の連携・協働</li> <li>9. 訪問看護における医療保険と介護保険の調整</li> <li>10. ケアマネジメント（サービスの調整）</li> <li>11. 事例についてグループワーク</li> <li>12. 在宅看護の動向と今後の発展</li> <li>13. } 在宅看護過程演習</li> <li>14. } 初回訪問（グループワーク、演習） 訪問看護師としてのマナー 訪問記録看護</li> <li>15. 筆記試験・まとめ</li> </ol>							
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 2021</p>							
<p>参考書</p> <p>押川真喜子監修 新訂版 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ 2021</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	災害看護	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	統合分野		講義		1	2年 1・2学期	
担当者	徳安倫子	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>災害発生時に看護職者として活動できるために、災害や災害看護について知り、非日常である災害時の対応を理解する。</p> <p>災害時に必須の技術として、安全対策、情報収集と発信、トリアージ、応急処置、搬送、こころのケアについて学ぶ。</p> <p>身近で起きた災害時の医療・看護支援活動を振り返り、グループワークする。</p> <p>諸外国との国際協力、活動内容について知り、災害看護の役割を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害発生時に看護職者として活動できるために、災害や災害看護について知り、非日常である災害時の対応が理解できる。</li> <li>2. 災害時に必須の技術として、安全対策、情報収集と発信、トリアージ、応急処置、搬送、こころのケアについて理解できる。</li> <li>3. 身近で起きた災害時の医療・看護支援活動について、グループワークを通して深められる。</li> <li>4. 諸外国との国際協力、活動内容について知り、災害看護の役割を学ぶ。</li> </ol>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害看護の基礎知識 求められる対応 災害に関する法律・制度</li> <li>2. 災害時の支援体制・医療体制 災害サイクル各期の医療と看護支援</li> <li>3. 災害の種類と災害時の疾病構造</li> <li>4. 疾病の具体例・感染症 災害関連死</li> <li>5. 災害時の技術・看護 1) 安全対策 2) 情報収集と発信 3) 心のケア</li> <li>6. トリアージ 救急処置の原則・搬送</li> <li>7. グループワーク、発表</li> <li>8. 筆記試験、まとめ</li> </ol>							
<p>教科書</p> <p>看護学テキスト 統合と実践 災害看護 学研 2021</p>							
<p>参考書</p> <p>適宜紹介</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	医療安全	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	統合分野		講義・演習		1	1年 1・2学期	
担当者	山下逸美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
担当者	長野恵美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>安全な医療ケアを提供するために、医療事故を防止するための理論や根拠を踏まえ、正しい知識・技術を現場に即した形で習得し、守るべきルールから逸脱しないことを目指す。准看護師免許を持ち現場経験があることを生かし、事故分析方法ができることを目標に、看護実践で正しく活用できるように知識・技術を統合的に学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>安全な医療ケアを提供するために、医療事故を防止するための理論や根拠を踏まえ、正しい知識・技術を現場に即した形で習得し、守るべきルールから逸脱しないことを理解できる。</li> <li>准看護師免許を持ち現場経験があることを生かし、事故分析方法ができることを目標に、看護実践で正しく活用できるように知識を統合できる。</li> </ol>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>&lt;山下逸美&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>医療安全の歴史と医療、看護を取り巻く状況、医療安全の概念の導入。</li> <li>医療安全に対する最近の動向・考え方（医療安全と看護の責務）</li> <li>ミスを防ぐための対策（事故発生メカニズムと防止対策）</li> <li>診療の補助業務の伴う事故防止（グループワーク）</li> <li>医療安全のマネジメント</li> <li>事故後の対応</li> <li>筆記試験・まとめ</li> </ol> <p>&lt;長野恵美&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>実習における医療安全とは - 体位・姿勢の保持・移動、身体拘束</li> <li>医療環境の整備、保清・整容、食事介助</li> <li>医療関連感染（HAI）予防策</li> <li>個人情報の取り扱い、患者からのセクシャルハラスメント・暴力</li> <li>インシデント・アクシデント後の学生のフィードバックと対応</li> <li>看護の現場で起こりうる医療事故 - 薬剤の取り違い、処方箋確認不足、輸液量</li> <li>多重業務のチェック漏れ、技術習熟度の確認不足、ルールの逸脱、コミュニケーション不足</li> <li>筆記試験・まとめ</li> </ol>							
<p>教科書</p> <p>看護学テキスト 統合と実践 医療安全 学研 2021</p>							
<p>参考書</p> <p>川村治子 医療安全ワークブック 医学書院</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	看護研究	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	統合分野		講義・演習		1	2年 1・2学期	
担当者	阿部喬子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	22 / 30時間
担当者	山下逸美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	4 / 30時間
担当者	長野恵美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	4 / 30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>看護における研究は、人間の健康問題に焦点を当て、生活者として対象を捉え、看護師が科学的実践を行っていくうえで、その基盤となる知識を形成するために非常に重要である。将来学生が、実践者として研究から見出された知識を正しく理解し、臨床で活用できる能力を身につけることをねらいとする。また、看護の事象を科学的にとらえ分析するための基礎知識として、看護研究における様々な研究方法についても学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究の概要を学び、理論と実践の結合をはかることができる。</li> <li>2. ケーススタディレポートを作成することを通して、看護研究への関心と理解を深め、研究への取り組みと成果の活用に必要な基本的知識の習得と研究的態度を養うことができる。</li> <li>3. 研究から得られた結果を正しく理解するための知識を有し、必要な知識を自ら探索することができる。</li> <li>4. 看護に関連する研究論文を批判的に読み、看護における有用性を批評することができる。</li> </ol>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>&lt;阿部喬子&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護における研究の意義と目的</li> <li>2. 看護研究における倫理</li> <li>3. 研究プロセスの概要</li> <li>4. 文献検索・統計的データ処理の仕方</li> <li>5. 研究成果の公表と評価</li> <li>6. ケーススタディとは</li> <li>7. ケーススタディのまとめ方</li> <li>8. 筆記試験、まとめ</li> </ol> <p>&lt;阿部喬子・山下逸美・長野恵美&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. </li> <li>2. </li> <li>3. } 紙面事例を用いたケーススタディレポートの作成</li> <li>4. } 研究計画立案・文献検索・データ処理</li> <li>5. } レポート作成</li> <li>6. }</li> <li>7. 公表準備</li> <li>8. 研究成果（ケースレポート）の公表と評価</li> </ol>							
<p>教科書</p> <p>松本孚・森田夏実 新版 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社 2021</p>							
<p>参考書</p> <p>F. ナイチンゲール 看護覚え書き 決定版 医学書院  V. ヘンダーソン 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会  黒田裕子 黒田裕子の看護研究 step by step 第3版 学研 2008  南裕子 看護における研究 日本看護協会出版会 2010  松木光子 小笠原知枝編 これからの看護研究 基礎と応用 第2版 ニューヴェルヒロカワ 2007</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験、ケースレポートなどで評価する。</p>							

科目名	統合技術演習	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義・演習		1	2年 通年	
区分	統合分野						
担当者	長野恵美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	17 / 45時間
担当者	阿部喬子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	16 / 45時間
担当者	山下逸美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	12 / 45時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>人間を統合された存在として幅広くとらえ、これまで学んだ知識・技術を医療安全として関連させて、各領域、臨床の場で遭遇することが多い事例を用いて、健康状態や障害の状態、援助の優先順位の決定、時間管理などを統合した技術演習を行う。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 設定事例の対象に必要な看護をアセスメントし、適切な援助が実施できる。</li> <li>2. 対象に応じて適切なコミュニケーション技術を用いて援助ができる。</li> <li>3. 多重課題に対して適切な優先順位の決定、時間管理ができる。</li> </ol>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>以下の演習の最終日に、技術チェックを実施する。</p> <p>&lt;長野恵美&gt; 1～9回 BLS・AED・一時的吸引</p> <p>&lt;阿部喬子&gt; 1～8回 導尿・経管栄養</p> <p>&lt;山下逸美&gt; 1～6回 コミュニケーション・輸液管理</p> <p>※上記項目（コミュニケーションは除く）について、それぞれ実技チェックを実施。</p>							
<p>教科書</p> <p>既習の教科書</p>							
<p>参考書</p> <p>適宜紹介</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、演習記録、技術チェックなどで評価する。</p>							

科目名	在宅看護論実習	必修・選択		授業形態		単位数	開講時期	
				実習		2	2年 1学期	
区分	統合分野							
担当者	阿部喬子	資格	看護教員	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	時間	90時間	
担当者	山下逸美	資格	看護教員	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	時間		
担当者	長野恵美	資格	看護教員	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	時間		
担当者	瀧本広美	資格	保健師 看護師	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	時間		
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅看護の対象に応じた在宅看護実践能力を養う。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の現状と対象について理解できる。</li> <li>2. 在宅看護の役割と援助の実際について理解できる。</li> <li>3. 関連機関との連携と社会資源活用について理解できる。</li> <li>4. 在宅療養者とその家族を支援する地域福祉サービスの実際について理解できる。</li> <li>5. 在宅介護を支援する公的サービスの内容について理解できる。</li> <li>6. 人々の健康増進、疾病予防のための保健活動について理解できる。</li> <li>7. 施設内看護と地域看護との連携を知り、継続看護の必要性について理解できる。</li> <li>8. 看護学生としての責任と義務を果たす行動がとれる。</li> <li>9. 自己の看護観を深めることができる。</li> </ol>								
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>実習場所 訪問看護ステーション 今治市中央保健センター 社会福祉協議会</p> <p>実習期間 訪問看護ステーション実習 2年次 1学期 5日間 保健センター実習 2年次 1学期 2日間 (実習開始前に実習施設でオリエンテーションを受ける) 社会福祉協議会実習 2年次 1学期 4日間 (実習開始前に実習施設でオリエンテーションを受ける)</p> <p>実習方法 1. 実習前、在宅看護論に関する自己学習をする。 2. 実習施設でオリエンテーションを受け、看護学実習における学習環境を理解する。 3. 訪問看護ステーション・保健センター・社会福祉協議会で実習を行う。</p> <p>実習内容 1. 実習指導者に同行し、利用者宅の訪問を行う。 2. 保健センターでの実習では、センター内あるいは地域に赴いての活動の実習を行う。 3. 社会福祉協議会の実習では、デイサービスセンター・訪問入浴サービスの実習を行う。</p>								
教科書								
参考書								
<p>成績評価方法</p> <p>出席日数、実習内容、実習記録などにより総合的に判断、評価する 3施設での評価点を加味して総合的に評価する</p>								



科目名	統合実習	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			実習		2	2年 2学期	
区分	統合分野						
担当者	阿部喬子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間
担当者	長野恵美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	
担当者	眞木智美	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>病棟管理や看護専門職としての役割を理解し、看護チームの一員として看護を実践することで、知識・技術・態度を統合して看護実践能力を養う。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病棟管理の実際や他部門との調整等の見学を通して、看護管理の実際を学ぶ。</li> <li>2. 看護チームの流れを把握し、リーダーシップ、メンバーシップについて理解できる。</li> <li>3. 複数の受け持ち患者の状況をアセスメントし、ケアの優先順位の判断や、時間管理をすることで適切な看護が実践できる。</li> <li>4. 受け持ち患者の診察の補助技術を、安全性、正確性を考慮しながら見学する。</li> <li>5. 看護学生としての責任と義務を果たす行動がとれる。</li> <li>6. 統合実習で学んだことを通して、看護師としての自己の目標や課題を明確にできる。</li> </ol>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>実習場所 愛媛県立今治病院（5東・4西・4東・3西・3東 の各病棟）</p> <p>実習期間 2年次 2学期 12日間</p> <p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習前、対象に関する基礎情報を確認し、自己学習をする。</li> <li>2. 看護管理の実際について学ぶ。</li> <li>3. 看護チームの流れを把握し、リーダーシップについて理解する。</li> <li>4. 受け持ち患者を含め、複数の患者の状況に応じた看護の実際を理解する。</li> </ol> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病棟看護師長に同行し、看護管理の実際を見学する。</li> <li>2. チームリーダーに同行し、リーダーの役割を学ぶ。</li> <li>3. 受け持ち患者の看護過程を展開し、援助を実施する。</li> <li>4. 複数患者へのケアの優先順位や時間管理について学ぶ。</li> <li>5. 実習期間中に1日のみ、準夜勤の看護師に学生の受け持ち患者の申し送りを実施する。</li> <li>6. 受け持ち患者の診療補助技術を、安全性、正確性を考慮しながら見学する。</li> </ol>							
教科書							
参考書							
<p>成績評価方法</p> <p>出席日数、実習内容、実習記録などにより総合的に判断、評価する</p>							